

2. 社会環境

(1) 土地利用

1) 住宅地、商業地等

下宮地区及び周囲の土地利用は住宅地が多く、そのほかに商業用地(小売業、その他)、工業用地、公益施設用地がある。商業用地は主に近年の竈門神社の参拝客、宝満山への登山客を対象としたものである。

2) 農地

大門地区だいもんは民有地で農作物のハウス栽培が行われており、土地利用は農林漁業施設用地である。大門地区の周囲でも土地利用は田畑、農林漁業施設用地が多い。

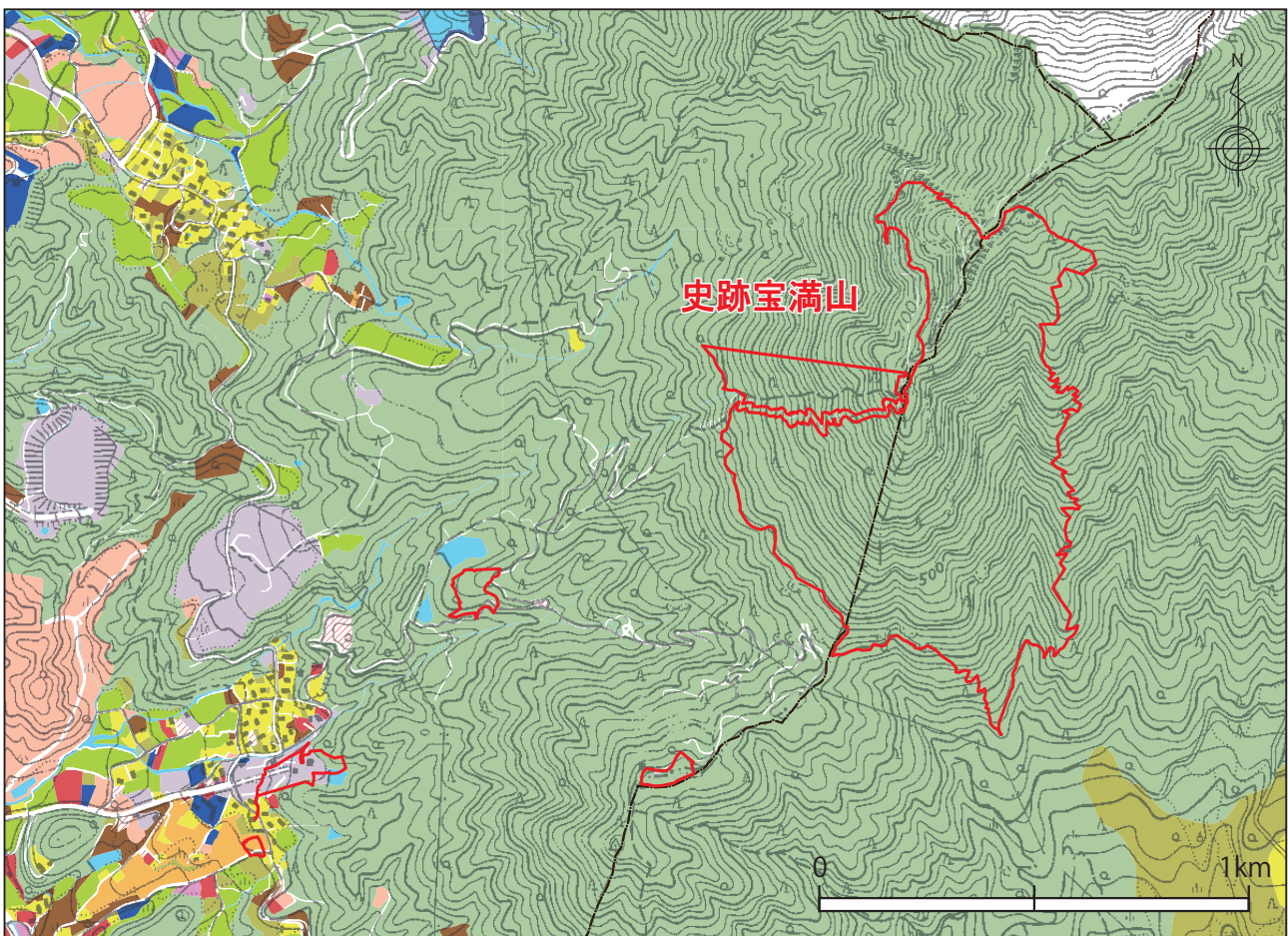


図 2-10 土地利用現況図 (都市計画基礎調査)

土地利用現況					
	田		住宅用地		交通施設用地
	畑		商業用地 (小売業)		公共空地1
	山林		商業用地 (その他)		公共空地2
	水面		工業用地		その他空地
	その他自然地1		公益施設用地		未利用宅地
	その他自然地2		道路用地		農林漁業施設用地

3) 山林

下宮地区、大門地区を除く指定地とその周囲の土地利用は山林である。史跡全域とその周辺は自然公園法や福岡県立自然公園条例に基づき太宰府県立自然公園に指定されている。

宝満山周辺では、普通地域は山麓部分を含むほぼ全域、第1種特別地域は西院谷付近から三郡山の主尾根及び斜面全域、第2種特別地域は三郡山から北北西に延びる砥石山方面にかけての主尾根(飯塚市と宇美町の境)、第3種特別地域は第1種地域を除く、標高700m以上の全域である。また、環境省指定特定植物群落として、三郡・宝満山の自然林、竈門神社のスタジイ林が指定されている。

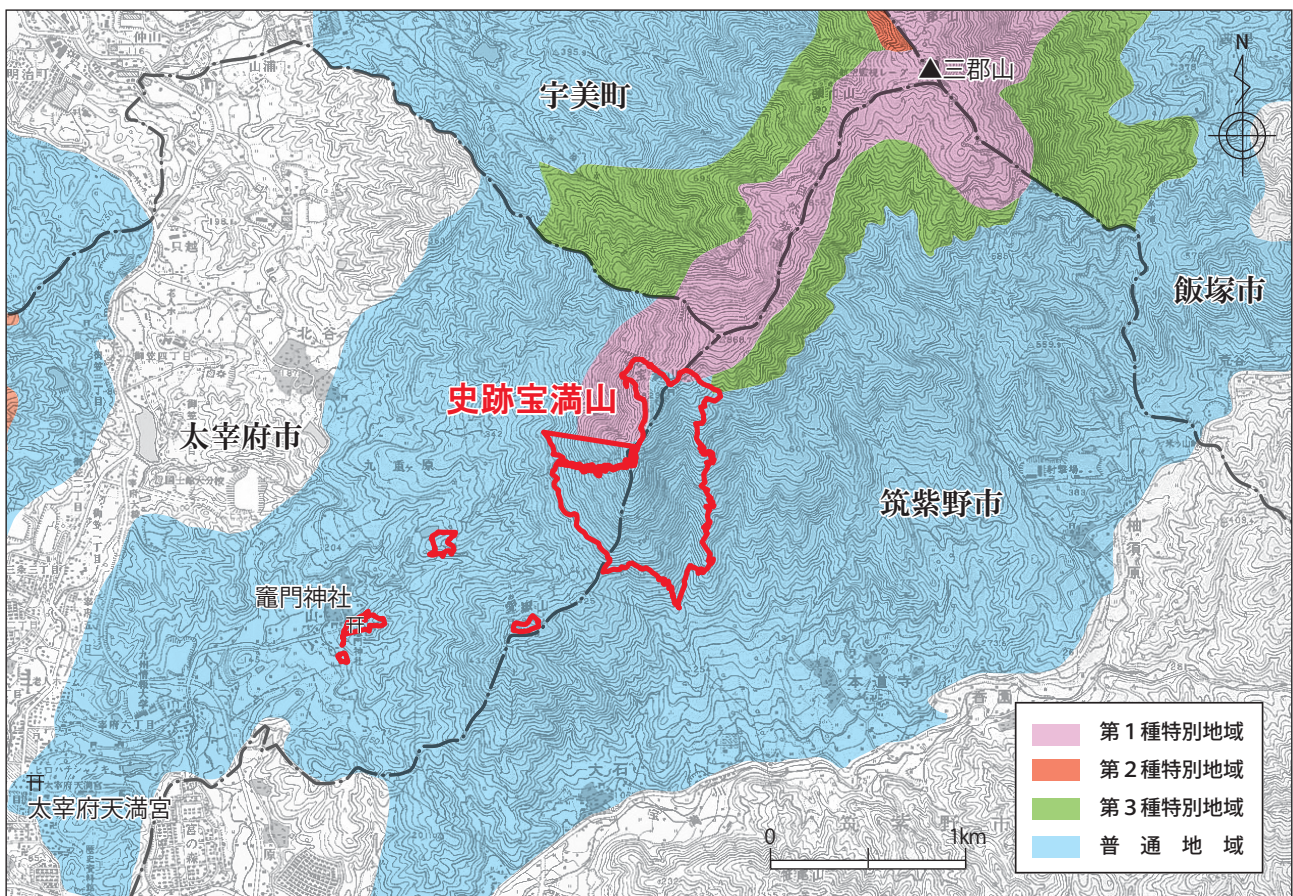


図 2-11 指定地と太宰府県立自然公園 (太宰府県立自然公園区域図：福岡県 一部加筆)

4) 社寺

指定地内及び近隣で信仰されている社寺名と概要を以下に記す。

史跡近隣の集落には神社、寺院に加えて、小祠、仏堂などの神仏が確認できる。近世筑前の地誌類によると、近世村落体制の成熟に伴い、それぞれのムラで中心となる村落神(氏神)が祀られており、大部分が一村一社であった。そのなかでも延喜式内社であり、盛時には九州の総鎮守といわれた竈門神社は複数のムラにまたがる信仰圏をもつ神社である「惣社」で、太宰府市の内山村、北谷村、筑紫野市の原村を中心に、筑紫野市の本導寺村、香園村、柚須原村、吉木村、阿志岐村、天山村などでも信仰されていたと推定される。

村落神には在来の地域守護神として惣社格の竈門神社のほかに、天神社、山祇社、大歳神社などがある。筑紫野市柚須原、本道寺に見られる山祇社はいずれも山間部にある集落であるため、在地性の強い「山の神」をそのまま村落神としたものであろう。あとから勧請されたとみられる鎮守神では天満宮、老松宮、宝満宮、大行事社などがある。太宰府天満宮の膝下荘園を含めて香園村などは天満宮領であったことから、鎮守神として天満宮、老松宮が勧請されている。宝満宮もまた竈門神社荘園との関わりが伺われる。大行事社は天台宗との関わりで当地の神社、寺院に色濃く反映している天台系の鎮守神と言える。太宰府市内山の竈門神社下宮、北谷の境外遥拝所、筑紫野市大石の高木神社(大行事社)、本道寺・柚須原の大山祇神社は江戸時代には宝満山の山伏が祭祀にあっていた(写真 2-24、2-25)。愛嶽神社は勧請の理由は不明であるが、近世では近隣の村落神として伊豆奈権現(飯綱大権現)が祀られ、牛馬安全の祈願が行われていたようである。

また、集落には多くの境内祀堂や小祠、仏堂があり、原初的な信仰に基づく地主神、田の神、山の神などの在地系の神が多く見られ、それに水神系、疫神系その他の勧請神が加わるといった様相を見せる。早魃に悩まされる地域では田の神とは別に水神社を勧請する場合があります。貴船神社、八大竜王社がそれに含まれる。また、博多櫛田祇園社の社人の唱導によるものと思われる祇園社も確認されている。宗教者の唱導によるとと思われるものは他に稻荷、金毘羅、恵比寿、神明、猿田彦神などがあり、江戸中期を頂点に各地へ普及したものと考えられる。

表 2-1 神社

名称	所在地	概要
竈門神社	太宰府市内山	天武天皇2年(673)創建。主祭神は玉依姫命。上宮、中宮跡、下宮がある。
式部稻荷神社	同上	創建不明。竈門神社の末社。祭神は倉稻魂命。
夢想権之助神社	同上	昭和42年(1967)創建。竈門神社の末社。祭神は夢想権之助。
須佐神社	同上	創建不明。竈門神社の末社。祭神は須佐之男命。
五穀社	同上	創建不明。竈門神社の末社。祭神は五穀神。
式部稻荷下宮	太宰府市内山御供屋谷	御祭神は、倉稻魂命。旧暦2月初午日に、竈門神社境内で「初午まつり」が行われる。奥の院は山の中腹にあったようだが、今は危険で寄りつけないという。
愛嶽神社	太宰府市内山	創建不明。祭神は軻偶土神。明治以前は伊豆名権現(飯綱大権現)が祭られていた。
竈門神社北谷遥拝所	太宰府市北谷	創建不明。祭神は玉依姫命・神功皇后・応神天皇。
貴船神社	太宰府市北谷宮ノ下	水の神様として信仰されている。以前は木造瓦葺の小祠であったが、昭和初期にコンクリートの祠となる。ご神体には白布がかぶせられている。社の下に大きな石があり、その下の水を「貴船様の水」と呼んで飲み水としていた。正月には注連縄が張られ、お餅が供えられる。
大山祇神社	筑紫野市柚須原	延暦13年(794)創建。主祭神は大山祇命。奉祀は近世を通じて宝満山伏の道場坊である。
大山祇神社	筑紫野市本道寺	延享元年(1744)創建。主祭神は大山祇命。奉祀については『続風土記拾遺』に宝満山伏の仲谷坊の名が見える。
高木神社	筑紫野市大石	文禄元年(1593)創建。祭神は天兒屋根命。鳥居の扁額に「大行事」と記してあり、近世においては大行事社と呼ばれていた。
香園天満宮	筑紫野市香園	創建不明。祭事は菅神(菅原道真)・紅梅姫・老松殿の三座。香園は中世において安楽寺天満宮の荘園であったので、荘園鎮守神として勧進されたものと思われる。

仏堂に祀られている諸尊、諸仏も多彩であり、主に観音、薬師、地藏、阿弥陀、大日であり、宝満山や安楽寺(太宰府天満宮)などを中心とする天台系仏教との関わりを示すものと考えられる。

表 2-2 小祠、仏堂

名称	所在地	概要
北谷地藏堂	太宰府市北谷宮ノ下	堂の由緒不明。本尊は地藏菩薩立像で製作は平安時代と伝えられる。
大師堂	太宰府市北谷宮ノ下	北谷の地藏堂横に所在する。木造トタン屋根の祠内には、石造弘法大師坐像(高さ103cm)、石造地藏菩薩坐像(高さ66cm)が祀られている。個人祈願の対象にもなっており、正月にはムラ内で注連縄を張り、餅を供えている。
地藏堂(1)	太宰府市内山御供屋谷	コンクリート造の祠内に、石造地藏菩薩立像が祀られている。
地藏堂(2)	太宰府市内山御供屋谷	コンクリート製の祠内に、石造地藏菩薩立像、石造千手観音坐像1体、石造不動明王坐像が祀られている。
観音堂及び五輪塔	太宰府市内山御供屋谷	観音堂の横に祀られている「五輪塔残欠」で、本来「火輪」ならびに「地輪」である部分が「水輪」に置き換えられている。周辺に五輪塔があった可能性がある。この付近は少弐氏の菩提寺の釈迦院跡との伝承がある。
地藏堂(3)	太宰府市内山(金剛兵衛井戸そば)	金剛兵衛(こんごうひょうえ)井戸そばにある像。高さ52cmを測る地藏菩薩像。
地藏菩薩(板碑)	太宰府市内山地蔵原	元来は、近くの田畠にあったものをここに祀ったという。板碑上部左右に梵字の「パーン」(金剛界大日如来の種字)、「キリーク」(阿弥陀如来の種字)がうすすら線刻してある。中央に浮き彫りがあり地藏様として信仰を集めている。高さ180cmを測る。
観音堂	筑紫野市袖須原	大山祇神社の傍らにお堂があり、木造の観音菩薩(千手観音)が安置されていた。像は康永3年(1344)に造像されたものである。現在は市博物館で保管している。



写真 2-24 大山祇神社(筑紫野市袖須原)



写真 2-25 大山祇神社(筑紫野市本道寺)



写真 2-26 高木神社



写真 2-27 北谷地藏堂



写真 2-28 地蔵堂 (2) (中央)



写真 2-29 観音堂及び五輪塔残欠

(2) 建築現況

指定地内の主な建築物として、下宮地区には竈門神社の社殿及び社務所、大門地区には農業用仮設建物、上宮地区には竈門神社上宮が建つ。筑紫野市東院谷地区にはキャンプセンター、トイレ棟、西院谷地区の端部にはマイクロウエーブ反射板が建っている。

下宮地区、大門地区周辺には住宅地が広がっている。下宮地区につながる県道沿いには近年、参拝客や登山客向けの商業施設、店舗併用住宅がみられる。

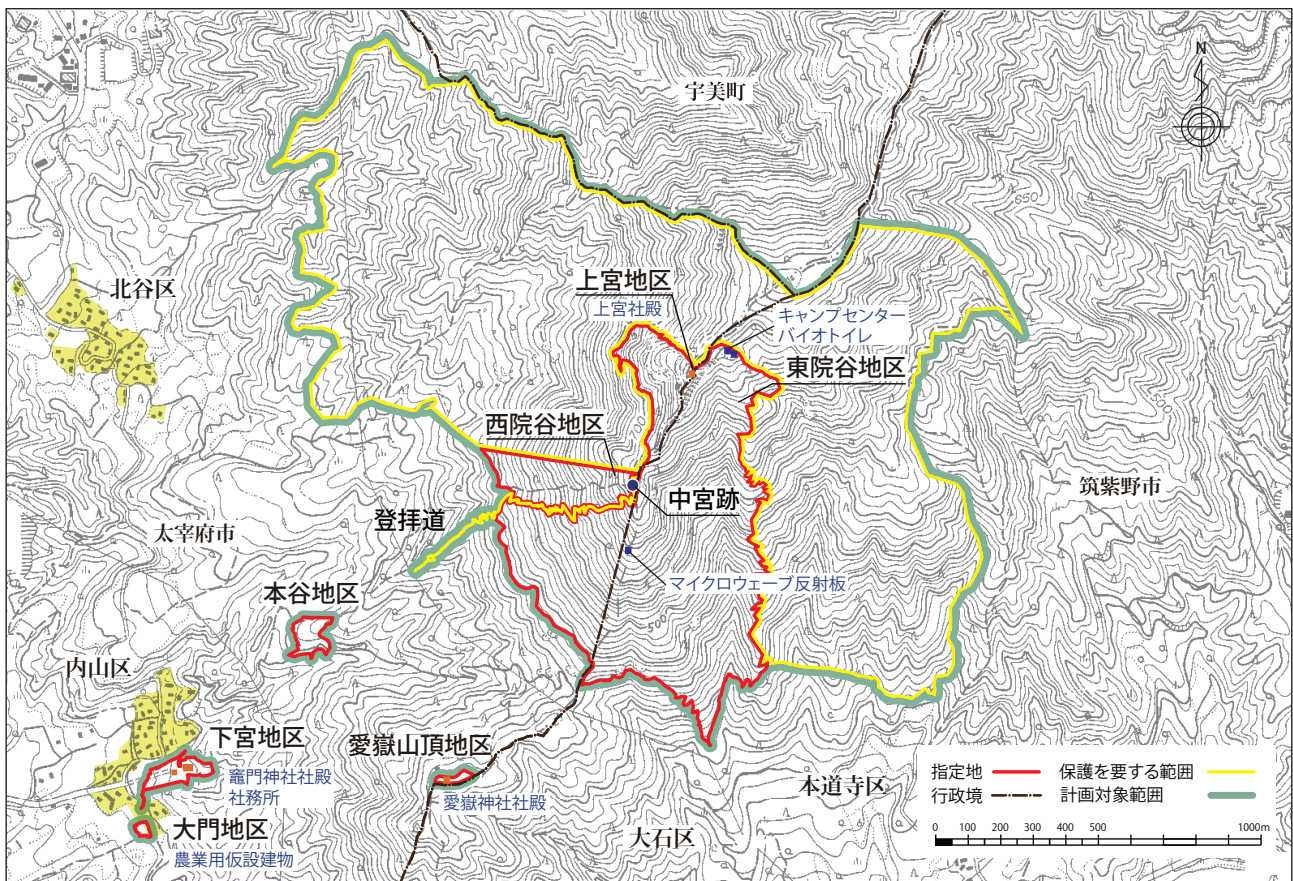


図 2-12 建築現況図



写真 2-30 上宮社殿



写真 2-31 キャンプセンター



写真 2-32 マイクロウェーブ反射板



写真 2-33 竈門神社社殿



写真 2-34 竈門神社社務所



写真 2-35 大門地区農業施設